

vol.
792

Compass

 <http://www.nikkenkyo.com>

 nikkenkyo@nifty.com

1

January
2012

日建協

日建連・日建協 新春対談

建設業界の現状と 魅力ある建設業に必要なもの

2011年 秋季会社訪問

日建協活動について経営者はこう考えています

日建協ワーク&ライフ フォトコンテスト

グランプリはだれだ！

2011年 日建協出前講座 出前講座って何してるの？

2011年度 日建協の委員会

◆建築アドバイザー会議 ◆女性技術者会議

加盟組合交流日誌

◆大和小田急建設労働組合…異業種交流勉強会

◆馬淵建設労働組合…TDL ツアー

2012年6月・11月 統一土曜閉所キャッチフレーズ急募！！

日建協アーカイブス…黎明期(1954年～1967年)

続・東西組合細見 15 — 中山組職員労働組合

クロスワードタイム 他

日建連・日建協 新春対談 建設業界の現状と 魅力ある建設業に必要なもの

加盟組合の組合員の皆さま、新年明けましておめでとうございます。今年一年が皆さまにとって、また私たちの働く建設産業にとって良い年となることを心よりお祈り申し上げます。

旧年中は、東日本大震災もあり、人と人との絆の大切さを感じた一年でした。日建協では未曾有の事態への対応を進めるなか社会貢献活動を展開し、皆さまにご協力いただきましたこと、あらためて御礼申し上げます。

2012年、新たな年を迎えるにあたり、建設産業が抱える課題について、業界団体である社団法人日本建設業連合会(日建連)の福田常務執行役と対談を行いました。労使間の相互の信頼を構築しながら、産業の発展に取り組んでいきましょう。

本年も昨年同様に、日建協活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



日建協 議長
山田 栄治

◎建設業界を取り巻く現状と震災復興については？

福田：日建連受注実績調査結果では前年比大幅増となっており、一見受注が増えているように見えるが、実際には昨年が過去最低レベルだったことが要因で、決して今期の受注水準が過去と比べ高い訳ではありません。建設業を取り巻く環境は依然として厳しく、足踏み状態が続いていると思います。その理由の一つは円高です。製造業の生産拠点が海外に移っていますが、円高対策や法人税の引き下げにより、国内産業を活性化することが急務です。また、エネルギー問題に早急に対応しないとイケない。現在の日本経済は力強さがまったく感じられない。円高対策については色々考えはあると思うが、この経済情勢で生き残るために、円高に耐えうる地盤を作っていくことが大事だと思います。



山田：震災復興の現状についてお聞かせください。
福田：震災復興については、第3次補正予算が成立し、がれき処理等の復興関連の案件も希望が持てます。建設業界は、本業で取り上げられることは少ないが、災害時には非常に頼りにされます。しかし、本業で頼りにされないと建設産業は廃れていきます。これは社会全体から見て、建設業界の評価が低いからだと感じます。これは私たちのアピールが足りないことも原因の一つです。業界を挙げて、建設産業の必要性をもっと強力にアピールする必要がありますね。

山田：労使協働で建設産業全体をアピールしていく必要があると思いますね。

◎日建連が取り組んでいる災害予防やBCPについて教えてください。

福田：建設会社というのは元来親方がいて成り立っていた歴史があり、社長や副社長などがいれば会社は大丈夫だと思います。

われていました。しかし、災害発生等の有事の際、経営者がいなくなっても会社は業務を継続しなければなりません。そのために日建連はBCPガイドラインを2006年に策定し、このガイドランに沿って各社がBCPマニュアルを作成しています。今回の震災でもマニュアル通り迅速に対応できました。無論これで対策は十分という訳ではなく、今回の経験を活かして、今後発生が予測される大規模自然災害などに備え、対策をさらに強化・充実していくことが重要です。

山田：震災等の有事だけでなく、日頃から仕事の手順を確立しておくことも大事ですね。人が一人いないから現場や事務処理が廻らないということでは困ります。

福田：事故や災害が発生した際、所長が不在で、携帯電話が通じなくても、組合員のみなさんが適切に対応できることが大事ですね。

◎働く環境については？

山田：私たちの働く環境は厳しさを増すばかりです。震災復興による雇用の創出はこれから増えてくると思います。しかし、被災地と離れている地域については、雇用が悪化しています。建設業界の市場規模が小さくなっているため、他産業への転職は難しい。今後、建設産業で働き続けるためには、賃金等の待遇面においても働く気概を持てるだけの賃金水準が必要だと感じています。

福田：現在は欧米式のスタイルをとっている会社が増えているようで、ひと昔前の建設会社のイメージとはかけ離れてい



る。これはあまり良い傾向でないと感じています。以前は給料が毎年少しずつでも上がり、生活が安定していた。今は、給料が良い人はいいが、そうでない人のことを考えた時、給料が上がりなければ、当然働く意欲がなくなる。難しい問題だが、経営者は社員の働く意欲の向上イコール企業のメリットであると、考え方をシフトした方が良いでしょう。

山田：私たちの働き方は、現場の施工管理を例にとっても和が大切だと思います。過度に行き過ぎた成果主義はこの産業に適していないと思います。やはり働く者の立場として、将来への安心感や未来が見えることが重要です。そして適正な評価でステップアップしていけることが働きたいと感じられる一番の近道ですね。

福田：若い人が「所長になりたい」と思えることが大事ですね。

◎なかなか休めない環境については？

山田：4週8閉所については、日建協のアンケートによると、ほとんど実現できていない結果が続いています。ただ、4週8閉所でできている現場も1割あります。私たちは、今後「4週8閉所ができている現場」を好事例として展開できればと考えています。

福田：これからは働くことと休むこととの「メリハリ」が大事。お金や人員が厳しい現場が多いが、「それでも休むんだ！」という気概があれば休めると思う。事前に計画すれば、その目標に向かっていけると思います。組合が行っている活動は、会社の生産性向上に繋がると考えます。

山田：時短に関しては、プロセスの検証と働く意欲が重要となると思います。そして好事例を産業全体に水平展開していくことで、時短は実現可能ではないかと思います。日建協が行っている大学生を対象にした出前講座の結果によると、休める環境づくりが一番必要だと大学生も思っています。また、スカイツリーなどの竣工により建設産業の魅力は少しずつですが再認識されています。労働環境の改善が進み、さらに建設産業の魅力を高めていきたいですね。

福田：厳しい工程の中、休みを多く取れた現場は社長に表彰してもらような制度ができればいいね(笑)

山田：そういう好事例があれば水平展開していきたいですね(笑)

◎「愛すること」がこれからのキーワード。これからの組合に必要なこと。

福田：昔は仕事も遊びもレールを敷いてくれるような世話役がいた。最近はこの会社もめっきりなくなったようだ。環

境が厳しくなったことも原因ですかね。

山田：最近は「個」を大切に過ぎる若者が増えて、他人からの干渉を嫌がるようです。組合の中でも「吞コミュニケーション」に誘っても来ない若者も多いですね。和の中の楽しさよりも個人の楽しさを優先してしまう傾向があるようです。ただ自分も含めたミドル層も余裕がなくなっているのも事実ですね。

福田：世話役も大事ですが、リーダーの存在も必要だと思います。この人が来たら場が引き締まるというような。労働組合の役割がここにあると思います。人と人の繋がりが希薄になり、若い人は群れない。みんなで行動しない。いい意味で群れる場所を作ってあげるのが今後の組合の在り方だと思います。みんなで集まったり、人の話を聞いてあげられるのは組合しかないのではないかと思います。上から目線ではなく、子供と話す時のように同じ目線で話を聞いてあげることで、こころの病気が大きくなる前に摘み取ってあげることができるのではないかと思います。

山田：まさしく組合だからこそできることだと思います。
福田：「愛すること」「大事にしあうこと」という当たり前のことが、これからの隠れたキーワードになってくると思います。会社、家族、上司、部下、すべての人を大事に思ったり、思われたりすることで盛り上がってくると思います。

山田：こころの健康に一番必要なのは、働く環境だと言われている。お互いが助け合い、思いやる気持ちをこれからの活動に活かしていきたいと思います。
福田：今後も産業を盛り上げるため、お互いに頑張っていきたいですね。

山田：2012年も組合員の労働条件の改善と産業の魅力を高めるために活動を行っていきます。これからもご支援とご協力をよろしくお願いします！



日建連について

2011年4月1日、建設業団体としての機能を一層強化・拡充し、建設業の発展に向けた活動をより強力に展開するため、日本建設業団体連合会(旧日建連)、日本土木工業協会(土工協)、建築業協会(建築協)の3団体が合併し、日本建設業連合会(新日建連)として新たな活動を開始しました。
日建連ホームページ <http://www.nikkenren.com>

日建連 常務執行役 福田 雄一氏

1973年、大成建設(株)入社。同社建築営業本部統括営業部長を経て、2011年より現職。主に労働安全衛生・防災を担当され、積極的に建設産業の労働環境向上に取り組まれています。



日建協では、加盟組合企業経営者に日建協のさまざまな活動への理解と協力をお願いすることを目的に、毎年春と秋に会社訪問を行っています。秋季会社訪問では、日建協の産業政策活動である『民間建築工事』『公共工事』の2つの提言活動を、アンケートなどから得られた加盟組合員の声をもとに企業経営者に伝え、意見交換を行いました。

4週8休を実現しよう

民間建築工事の提言

民間建築工事の『4週8休を含む不稼働日が考慮された工期設定』の実現にむけて

ここ数年の日建協時短アンケートでは、外勤技術職の平均所定外労働時間は月80時間で常態化しています。このような長時間労働の大きな要因の一つは、土曜・祝日も作業せざるを得ない工期設定にあり、適正な工期での受発注ができるルールづくりが必要と考えています。



今回の会社訪問では

- ・契約時に用いられる約款に休日条件を明示するよう働きかけること
- ・4週8休を含む不稼働日が考慮されている公共工事の工期設定の考えを、民間工事発注者へ働きかけること

この2つの取り組み状況について、具体的な対応策やご意見をいただきました。

企業経営者からの主な意見

- ・適正な工期での受発注が可能なルールづくりができれば、建設産業で働く誰もが休日を取得することにつながり幸せになれる。しかしながら、一企業だけでは実現できないので、日建協にはもっと声をあげて取り組んで欲しい。
- ・日建協は監督官庁である国土交通省に対し提言を行い、まず公共工事で適正工期を実現し、この工期の考えを民間工事にも浸透させることができれば良いと思う。
- ・4週8閉所を実現し、所定外労働時間の削減に努めている企業に対し、受注の際にインセンティブを与えられると良いと思う。
- ・日建協の適正工期への取り組みはとても大切だと思う。日建連など業界団体からも諸官庁などへの働きかけが必要だと思う。
- ・法律で長時間労働を規制し、違反した企業に罰則を適用すれば、閉所や休みが取得しやすくなるのではないかな。
- ・現場異動時休暇の取得を推進し、労働時間が長いイメージを少しでも払拭すべく努力している。



会社訪問を終えて

日建協が考える適正な工期で受発注ができるルールづくりの必要性など、民間建築工事への提言活動について企業経営者の方と大変有意義な意見交換ができました。民間建築工事における適正工期での契約の実現には多くの課題があるものの、建設産業にかかわる団体や組織との意見交換をつうじ、働きかけを行っていきます。

労働環境を改善しよう

公共工事の提言

作業所で働く組合員の労働負担の軽減をめざして

日建協では、土木作業所を対象としたアンケートをもとに、作業所で働く組合員の労働負担の軽減をめざした提言活動を実施しています。総合評価落札方式や低価格受注などが要因になって、組合員の所定外労働時間の増加につながっているとの声が多いことから、改善が必要と考えています。



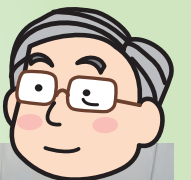
今回の会社訪問では

- ・総合評価落札方式に関して、組合員の労働環境改善につながることを
- ・低価格受注に関する
- ・受発注者間において片務性を感じることを

この3つの内容について、具体的な対応策やご意見をいただきました。

企業経営者からの主な意見

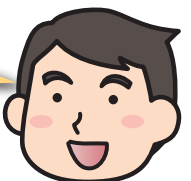
- ・単純な工期短縮ではなく、作業所の労働負担を伴わないような技術提案書の作成を、技術提案部署に指導している。
- ・休むという意識改革において、すべてのゼネコンが歩調をあわせていければ良い。
- ・公共工事における片務性や書類の煩雑さに対する意見は現場から強く届いている。各現場・一企業ではできないこのような活動を、日建協は進めて欲しい。
- ・低価格受注は職員の過重労働のみならず、企業としても労働災害や品質のトラブルなどにつながることが懸念される。
- ・所長も発注者も早く工事を進めることに集中してしまう。休めない心と体の健康問題につながる。
- ・現場では慣例的に無報酬業務を行っている。発注者側が改善しないと解決しない。



会社訪問を終えて

日建協は作業所で働く組合員の労働負担の軽減をめざして、提言内容がより浸透するよう、これからも声を上げつづけていきます。これまでの活動により、発注者側においても公共工事における無報酬業務の解消にむけた意識は年々高まっています。また、魅力ある建設産業の実現にむけた思いは企業経営者も同じです。日建協では、業界団体とも協働しながら課題の解決にむけて取り組んでいきます。

統一土曜閉所運動による時短推進活動を含め、一企業では取り組めない課題に取り組む日建協の活動を、会社経営者の方々に説明し理解していただきました。今後も産業別組織として日建協活動の理解促進にむけ提言活動の充実をはかり、公共工事発注者・民間工事発注者などに働きかけていきます。





日建協ワーク&ライフフォトコンテスト、グランプリはだれだ！



日建協では、読者の皆さんに参加していただける特集記事としてフォトコンテストを企画しました。
“ワーク&ライフ”のひとコマを撮影した力作が、多くの読者から寄せられました。
日建協ではさっそく審査を行い、各部門ごとにグランプリと優秀賞を決めさせていただきました。

審査するのめたいへん楽しかったことを加えておきます。上位に入賞した力作をご紹介します。
2012年もワークとライフを充実させて、素晴らしい1年となりますように！
Compassでは、みなさんに参加していただける特集をさらに企画していきますのでご期待ください。



ワーク部門



グランプリ

8時だよ！全員集合？

福間 加純 さん（戸田建設職員組合）

寸評：
朝の作業所の活気と、みなさんのやる気が伝わってくるようです。今日も安全第一で！
みなさんいい顔をしています。

後輩）現場の1日は朝礼から始まります。
先輩、全員揃ってますかね？
先輩）数えてみろ！
後輩）ひい、ふう、みい・・・



ライフ部門



グランプリ

ペットボトルロケット発射！

北山 桂 さん（東洋建設職員労働組合）

寸評：
右足のつま先を上げて後ろから見るお姉ちゃん。表情は見えませんが真剣そのものですね。お父さんとの楽しい1日が伝わります。

子供祭りで地元の中学生在が作成したペットボトルロケットを、娘達が恐る恐る発射した瞬間です。自転車の空気入れと水を使って飛ばしています。



ワーク部門



優秀賞



顔色良し!!

寛 哲志 さん (西松建設職員組合)

毎朝対面で行う服装チェックでは顔色確認も行い、相手の体調も確認します。

寸評:
仕事も生活も、健康が資本です。今日も1日がんばるぞ!



打ち合わせ風景

米山 諭 さん (東洋建設職員労働組合)

真剣な表情を家族にも見せてあげたいです。

寸評:
子どもたち、お父さんはこんなに頑張っているよ。



ライフ部門



優秀賞



お父さんとお昼寝

賀谷 尚志 さん (佐藤工業職員組合)

いつも母としか寝ない息子が、その日に限って父と遊んでいるうちにお腹の上で寝てしまいました。

寸評:
気持ちよくトロロの夢でも見てるかな。



やっぱり海は最高

後藤 広長 さん (大日本土木労働組合)

夏休みに妻の実家で子供達と海遊びをしました。タコ・フグ・あらかぶ等の生き物を捕獲して楽しみました。日が暮れるまで遊んだ思い出のワンシーンです。

寸評:
たそがれの海がきれいです。楽しい思い出ですねー。



お父さんは力もち

塩田 将行 さん (東鉄工業労働組合)

私の住んでいる埼玉県新座市にあるNPO法人新座子育てネットワークの行事に参加したものです。参加者は92人(大人50人 子ども42人)、27組でした。「働かざるもの喰うべからず」がモットーなので、最後の片付けに至るまで働く、あれれ、食べ損ねた…なんてこともあります。

寸評:
大勢での餅つきは最高の年末行事ですね。お父さんの力をを見せてやれ!



心を一つ… みんなで自慢の作品 (建物)を築くぞ!!

諸留 幸治 さん (フジタ職員組合)

設計事務所・施工者・作業長にて固い絆を高めた安全大会(バーベQ)の時の集合写真です。心を一つにして、建築工事をチームワークで楽しんでいます。

寸評:
職場のチームワークがしっかり伝わってきます。いい作品をつくってください。



ゆっくり過ごそう

村上 拓也 さん (フジタ職員組合)

わが町に巨大亀が現れました。子ども達は触ったり乗ったりと大騒ぎでしたが、スローライフを地でいく立ち振る舞いに、ゆとりを持つことの大切さについて考えさせられました。

寸評:
子どもは上手に自然と共生しますねえ。おとなは教えられます。



出航だ〜!

田崎 昌平 さん (大豊建設労働組合)

息子共が今年から親父の趣味にデビューしました。

寸評:
親子で共通の趣味なんて、お父さん、うれしいですね。

2011年日建協出前講座

日建協では建設産業に対するイメージの悪化と、建設産業への入職者の減少を危惧して2006年から出前講座を始めました。出前講座では加盟組合の作業所から講師を招き、ゼネコンで働く職員の生の声を大学生に届けています。大学生に建設産業で働く魅力を伝えたい! ゼネコンの仕事の内容を正確に伝えたい! そんな思いの詰まった出前講座を紹介します。

出前講座は土木、建築系学科を対象に開催しています。出席する大学生の多くは「ゼネコン」という単語を知っていても「ゼネコン」の仕事の内容を知らないのが現状です。

出前講座を受講した学生からは「この講座に参加して、ゼネコンも就職選択の一つになった」「ゼネコンに入ってから、出会いがあるのか気になる」「ゼネコンの仕事が身近なところで関係していることを知った」などの声があり、大学生のみなさんにとって、ゼネコンで働くことのイメージができたのではないのでしょうか。

大学生の心を動かした5人の講師の熱い講座を紹介します。

出前講座タイムスケジュール(90分)

- | | |
|------------------------------|-----|
| ●ガイダンス・開始前アンケート | 10分 |
| ●建設業の魅力について(日建協) | 20分 |
| ●日建連提供ビデオ上映 | 10分 |
| ●ゼネコンでの働き方について
(加盟組合派遣講師) | 40分 |
| ●質問・日建連紹介・終了後アンケート | 10分 |



東洋大学 11月11日(男性224名、女性33名参加)

「施工力はアイデア力である」

講師 池端 裕之さん
戸田建設職員組合



池端さんは現場勤務、店社勤務をした自分の経歴を紹介し、「総合建設業は入社をしてから、施工、設計、技術開発など多様な職種を経験できる」と魅力を話しました。続いて、「作品が完成するまで」と題してビル現場の工事着手前、施工中、完成までの写真を使いビルが日を追って高くなっていく建築工事の醍醐味を語りました。最後に有名建築家が設計した、施工不可能では無いかと思ってしまう複雑なコンクリート構造物を、職員、協力業者で協力して知恵を絞り施工した事例を話し、アイデアで不可能を可能に変えた時の喜びを伝えました。

北海道大学 11月18日(男性42名、女性5名参加)

「同じ現場は二度と無い!」

講師 幸元 秀旗さん
西松建設職員組合



幸元さんは現在北海道のダム現場で施工管理の仕事をしています。講座では実際に幸元さん自身が携わったダム現場での橋梁工事について、写真と図面を用いながら施工の流れを解りやすく説明しました。また、幸元さん自身が北海道大学の出身ということもあり、後輩である学生のみなさんに大学で勉強することが会社に入ってから役立つことがたくさんあると、アドバイスを送りました。講座の最後に建設工事の場合、全く同じ条件で物は作らない、この違いの対応に苦労することが多いが、乗り越えたときの喜びと達成感が建設産業の魅力であると、講座を締めくくりました。

～出前講座って何してるの?～



法政大学 11月24日(男性79名、女性11名参加)

「作業所ではコミュニケーション力が重要」

講師 山下 慎司さん
馬淵建設職員組合

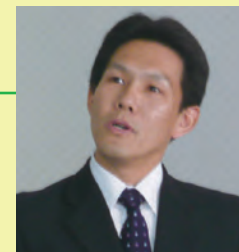


現場の所長をしている山下さんは、実際の工事で配った「工事のお知らせ」を使い、工事の進む手順をわかりやすく説明をしました。良いものを作るためには一人の力だけではなく、みんなの力を合わせることが必要と、協力することの大切さを伝えました。続いて、自らが計画した工法変更が発注者に認められた事例をあげ、自分が計画したものが形になる喜びを伝えました。最後に現場監督は近隣住民、発注者、協力業者など、コミュニケーションを取る事が重要であるとまとめました。

名古屋工業大学 11月30日(男性44名、女性4名参加)

「世界で1つしか造れないモノ」

講師 白岩 健児さん
フジタ職員組合



白岩さんは施工管理の仕事について出面や出来形などの専門用語も学生にわかりやすく、丁寧な解説を交えながら説明をしました。講座では1つの現場の話にとどまらず橋梁、トンネル、ダムといった大規模工事から下水道敷設の工事まで多岐にわたる土木工事について紹介しました。また、実際にゼネコンで活躍している女性を例に挙げて、女性も活躍できる職場であることを紹介しました。講義の最後はご自身の感じる建設産業の魅力を「その土地に世界で1つしか造れない、モノ造りの喜びを知ってほしい」という言葉で学生に語りかけました。

大阪工業大学 12月15日(男性96名、女性7名参加)

「島民と一体になり悲願を叶える」

講師 野中 宗一郎さん
五洋建設労働組合



大阪工業大学出身の野中さんは、大学での授業は仕事をする上での基礎となっていると母校の後輩達に伝えました。また、若い現場職員の仕事ぶりの写真を交えて、ゼネコンでは新入社員といえども作業員に指示をする、安全管理を行うなど責任ある仕事を任されると話しました。そして、断崖絶壁に囲まれた離島に30年かけて港湾施設を完成させ、島民の生活を飛躍的に向上させたプロジェクトに従事した経験を話し、島民と一体になり難工事を完成させた喜びを分かち合うことができた、土木工事の魅力を伝えました。

業界団体との連携

出前講座は業界団体である日本建設業連合会(日建連)から配布資料の提供を受けています。建設産業の魅力を伝えたいという思いは業界団体も同じです。



おわりに

2011年の出前講座も、加盟組合の協力のもと個性あふれる5人の講師により開催しました。

大学生のみなさんは、就職活動では触れられない建設産業で働く職員のよこびを肌で感じる事ができたのではないのでしょうか。

大学生のみなさんがゼネコンの仕事の内容を知り、ゼネコンで働いてみたいと思ってくれることが建設産業の明るい未来につながると信じています。

2011年度の日建協の委員会 ～ 私たちが盛り上げます!～

◆建築アドバイザー会議 ～頼れる仲間が揃いました～

適正な工期での受発注ができるルールづくりにむけて

建築アドバイザー会議は加盟組合から応募いただいたメンバーで構成され、民間建築工事における提言活動の方向性や内容を検討します。2011年度は昨年度に引き続き、契約や約款に注目し、4週8休を含む不稼働日を考慮した工期設定の実現にむけて活動していきます。また、国土交通省に対し民間建築工事の発注者にも4週8休を含む不稼働日を考慮した工期設定の考え方を示すよう働きかけます。頼りになるアドバイザーとともにルールづくりにむけて議論を交わし、みなさんの働く環境を少しでも良くするために活動していきます。

2011年度の建築アドバイザー

2010年度より継続する4名に加え新たに8名が参加し、総勢12名で活動します。建築アドバイザーのみなさんは設計、施工、設備など多様な職種から集まり、様々な角度から討議をすすめていきます。

2011年度 建築アドバイザー（敬称略）

朝日裕之（佐藤職組）、荒井 正（シミズユニオン）、井上雅雄（戸田職組）、大石 功（フジタ職組）、尾下智一（大豊労組）、砂川大栄（ハザマユニオン）、角田大輔（大和小田急労組）、戸倉健太郎（三井住友社組）、名倉昌宏（西松職組）、平松一郎（奥村職組）、藤田義徳（銭高労組）、松永克平（ペンタユニオン）



ルールづくりにむけて議論していきます!



第1回開催時の様子(11/4)

◆女性技術者会議 ～働きつづけられる職場とは～

女性技術者が考えるロールモデルとは

日建協は建設産業におけるワーク・ライフ・バランスの実現にむけて活動しています。そのためには、女性の視点からの意見も重要と考え、2011年度は18名の女性技術者を委員として招き、女性技術者会議を開催しました。

2010年度の会議で委員の方から、「身近にめざすべきロールモデルが見当たらない」との意見が多数ありました。そこで2011年度は、『作業所で働く女性技術者の職場環境や、めざすべきロールモデル』をテーマに会議を行ないました。各委員から現状の働き方や働きつづけるための課題について発言があり、また3つのグループに分かれての討議では課題解決のためのアイデアを出し合うなど、活発な会議となりました。

2011年度 女性技術者会議委員（敬称略）

伊澤美幸（ピーエス三菱労組）、岩崎 悠（馬淵建設組合）、宇井いづみ（佐藤職組）、大澤あや（大和小田急労組）、大嶋彩華（佐藤職組）、岡本江望里（佐藤職組）、葛岡葉々美（鉄建職組）、今野夏美（鉄建職組）、佐々木香織（大豊労組）、佐藤浩美（戸田職組）、高橋 茜（シミズユニオン）、高橋菜美（奥村職組）、角田 沙世（シミズユニオン）、鳴海良美（JSユニオン）、服部 茜（フジタ職組）、藤岡 杏（ペンタユニオン）、藤森真美（三井住友社組）、森田 慧（戸田職組）



加盟組合交流日誌

Exchange diary of affiliate unions

大和小田急建設労働組合

「ANAのCSマインド」にふれた1日

大和小田急建設労働組合異業種交流勉強会
於 ANA機体メンテナンスセンター（2011.11.25）

大和小田急建設労働組合では、組合活動の一環として、異業種労働組合との交流をつうじた勉強会を積極的に実施しています。今回は全日本空輸労働組合の協力を得て、格納庫内での飛行機の整備作業見学と意見交換会が開催され、日建協も参加させていただきました。

格納庫見学では、1～2年毎に行われる定期整備を見学しました。普段見ることが出来ない格納庫内部や、飛行機に目を奪われていた参加者のみなさんですが、そこは建設会社の社員。安全管理や整理整頓など、建設現場と共通したところにも多くの関心が向けられていました。



格納庫の広さと間近で見る飛行機の迫りに圧倒されます。夜間は整備中の飛行機でいっぱいになるそうです。



ジャンボのエンジン！黄色のヘルメットが入社2年目までの整備士さん。みんなで見守り育成するそうです。

見学会終了後には参加者が2グループに分かれ、見学会で印象に残った事例を出し合い、自社の業務に活かせる事例を纏めてプレゼンを行いました。また、整備士や客室乗務員の人材育成、雇用形態等について積極的に質問し、情報収集を行いました。



安全管理やコスト削減への取り組み等、得るものがたくさんありました。

異業種からも「積極的に学ぼう」という大和小田急労組の取り組みは、会社の発展とともに組合活動の活性化にも繋がる好事例として、他の加盟組合にとっても参考になると思います。日建協においても建設産業の魅力化に向けて、他産業からも好事例を取り入れながら活動していきたいと思っています。



充実した勉強会となりました。

馬淵建設職員組合

夢と魔法の力で土閉率アップ!

馬淵建設職員組合東京ディズニーリゾートツアー

於 東京ディズニーランド（2011.11.12）

馬淵建設職員組合では、年2回（11月・6月）の日建協の統一土曜閉所日に合わせ、組合員同士の交流・親睦、また家族とのコミュニケーションを深めるために、首都圏支部での催し物を開催しております。

内容はボーリング大会であったり、地引網であったりいろいろですが、毎年11月は大人も子供も楽しめる東京ディズニーリゾートツアーを企画しております。普段、現場の方はなかなか休みがとれない中、統一土曜閉所日に開催することで休むことの意識が高まり、また家族サービスとしても大変好評を得ており、毎回多数の応募があります。今回は組合員とその家族など240名が参加しました。参加者からは『毎年楽しみにしている』『これからも続けて欲しい』との声が多数寄せられています。



絶好の行楽日和の中、TDLを満喫しました!



夢と魔法の国へのチケットをもらって、みんなウキウキです。

今後の課題として、当日は各自自由行動なので組合員同士の交流がパーク内で何かできないか考えております。多くの組合員が参加し、思い出に残る楽しい一日を過ごしていただければこれからも続けていきたいと思っています。

急募!! 2012年6月9日・11月10日の 統一土曜閉所運動キャッチフレーズ大募集!

締め切り間近 1月20日(金) 必着

建設産業で働くみなさんにご家族から、広く統一土曜閉所ポスターのキャッチフレーズを募集いたします!

建設業に従事する人のワーク・ライフ・バランスの実現を進めていく為に、みなさんのアイデアを活かしたいと考えています。みなさんのアイデアとご協力が統一土曜閉所運動の成功につながり、明るいみなさんの笑顔が見えてきます。

～2011年の統一土曜閉所運動ポスター～



奮ってご応募ください!

ココのキャッチフレーズを募集!
(未発表作品に限ります。)

統一土曜閉所運動とは・・・

日建協では、ひとりでも多くの人に「休むことの大切さ」と「心と体の休息日」を実感してもらい、時短意識高揚につなげてもらうことを目的に、年2回(6月・11月の第2土曜日)の統一土曜閉所運動に取り組んでいます。

【内 容】

統一土曜閉所運動のキャッチフレーズの募集

【募集期間・資格】

2012年1月20日(金)必着

建設業で働く皆さんと家族ならどなたでもOK!

【応募方法】

メール、FAX、はがきいずれも可。
(住所、氏名、会社名の記載をお願いします。)
E-mail: fukuyama-jcu@nifty.com (日建協 福山)
FAX: 03-5285-3879
住 所: 〒169-0075
東京都新宿区高田馬場1-31-16山ビル3F

【入賞者の表彰】

優秀賞(2点) 2万円相当の商品券
佳作(2点) 5千円相当の商品券 を進呈

【入賞者の発表】

Compass 3月号(Vol.793)誌上を予定
(日建協HPにも掲載予定)
*応募に際しての個人情報、入賞者への賞品発送以外には使用しません。

NIKKENKYO ARCHIVES

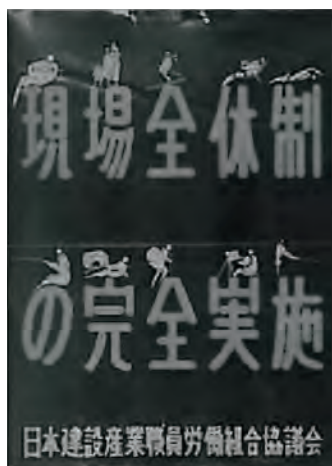
①日建協黎明期(1954～1967)

1954年12月12日、日建協は16単組9,000人の組合員をもって結成されました。当時の建設業においては、戦後最大のお況を呈しつつありましたが、公共事業費の削減により、出血入札が一般的な現象となっており、企業においては苦しい時代が続いており、結果として労働者に長時間労働や賃金切り下げなどのしわ寄せが強いられる状況でした。また、機械化による生産性向上により工事量が毎年3～4割も増え続け、ますます建設工事は忙しくなり、建設業界の封建性も背景に、組合員は日曜日も休めず、残業は慢性化し、人間らしい生活をしたいという願いは非常に強まっていました。

日建協では1957年にはじめてこの問題を運動方針に掲げ、「現場全休制運動」を日建協初の統一行動としてスタートしました。しかし、要求はするものの工事量の増加による人員不足により実施は非常に困難でした。

1961年には労働省より都道府県労働基準局長あてに「建設業における一せいで休制推進要綱」と題した通達が送られました。1962年には、日建協は労働大臣あてに、建設現場における第一、第三日曜全休日実施についての要望を提出し、この頃から徐々に地方自治体も第一、第三日曜全休制を義務付けるところも多くなり、ようやく世間に着目される成果があがりはじめました。

日建協は1954年12月12日に結成し、今年で58年目に入りました。これまでの日建協の時短活動の歴史を4号に渡ってご紹介します。



▲日建協の活動の歴史を記録している5年史、10年史。

▲日曜日の休みもままならない時代のポスター。文字の上には余暇を過ごす絵があります。

▶1967年当時のポスター。コンセプトは今と変わりません。



楽

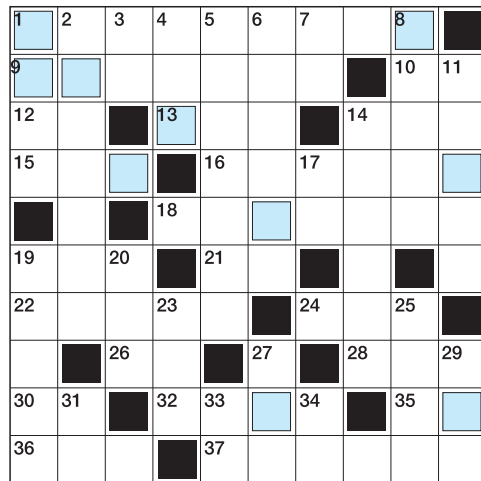
クロスワードタイム

寒い日が続きますが、寒さはこれからが本番です。体調に気をつけながらクロスを楽しんでください。今年もクロスをよろしくお願いします。二重枠の言葉を並び替えると答えが出ます。答え、郵便番号、住所、氏名、加盟組合名、Compassの感想を記入し、はがきかメールでご応募ください。正解者の中から抽選で30名様にクオカードを贈呈します。

■メ切:2月13日(月) ■宛先:〒169-0075 新宿区高田馬場1-31-16 山ビル3階 日建協クロスワード係(Mailはこちらへnikkenkyo@nifty.com)

ヒント:

第30回の記念すべき大会です。



ヨコのカギ

- 直角三角形3辺の長さの関係を表す等式で、三平方の定理とも呼ばれています。
- 1950年代に米国で流行した、カントリー音楽にリズム&ブルース等を取り入れた音楽。
- 余ったひまな時間。仕事の合間などの自由に使える時間。
- 「〇ひろ子」「〇原涼子」「〇田麻里子」。
- 読み通すこと。読み終わること。
- 江戸後期に江戸で流行した。歌詞が短く調子のくだけた、三味線の伴奏で歌われる歌。
- 過去に覚えたことや体験したことを、忘れずに心にとめておくこと。
- 日本では2回開催されています。
- 暑さや寒さをこらえて競い合います。
- オットセイに似ているが、やや大型の海獣。
- 金銭・物品などの使い道。
- 仕事に長じている人。また、ミスなくきっちり仕事を片づける人。
- 氷を英語でいうと?
- 他国の国籍を得て、その国民になること。
- 知的な能力を育てる教育のこと。
- 縄や竹などを使い、鳥や獣を生けどりにする仕掛け。
- 高いおか。岡。
- 江戸時代、大名が支配した領域およびその統治機構。
- ジョナゴールドや紅玉、王林などの品種があります。
- 文法的機能の変化や他の語との接続関係によって、語の形が変化すること。

タテのカギ

- ロシア風の揚げ饅頭のことです。
- 全長10cm位の海水魚で、頭部が馬に似ていることからウミウマとも呼ばれる。
- 言葉の句切り、また言葉の一まとまり。
- 「ワンダー○○○」「ドリーム○○○」「サマー○○○」。
- コインを入れてレバーを引き、図柄を揃えて遊ぶゲーム機。
- スポーツ競技などで、得失点に数えないこと。
- 弓の名手として知られている英雄。「ウィリアム・○○」。
- 栗原はるみやケンタロウなど、「食」を職業にしている人。
- 縫りをかけた糸にガス焼き・漂白・ろう引きなどの加工を施した、主にミシン用の細い木綿糸。
- 年末に特定の場所で、羽子板を売ること。
- 日の出る方向に向かって左の方角。
- 自動車などで、車輪を支持する部分、またその全体の機能のこと。
- 古いものから新しいものへと移り変わる途中の時期。
- 日本料理の調理場で、主に物を煮ることを担当する人。
- お米を炊くことです。
- 食物などに含まれている塩分量。
- 主君の家、また君主の家のこと。
- インドや中近東の平焼きのパン。
- 竹や籐、針金などを編んで作った、編み目のある容器。
- ハマグリやカキ、サザエなどの総称。

Vol.791クロスワード 正解と当選

答えは「一日千秋(イチジツセンシュウ)」でした。

イ	チ	ゴ	イ	チ	エ	ジ	モ	ト
シ	ガ	イ	キ	ヨ	ク	バ	ン	ビ
カ	イ	シ	ウ	ボ	ク	ツ	イ	
ワ	ダ	カ	マ	リ	ガ	ラ	ク	タ
タ	ナ	イ	タ	グ	メ	モ	ト	
ク	ガ	マ	ノ	ア	ブ	ラ	ビ	
ボ	タ	ウ	ダ	イ	オ	コ		
ク	ニ	キ	メ	ラ	コ	ユ	ミ	
ア	フ	ガ	ン	ハ	ウ	ン	ド	
カ	イ	セ	ン	ラ	ッ	パ	ノ	ミ

多数のご応募ありがとうございました。次の方が当選されましたのでクオカードをお送りします。またのご応募をお待ちしています。

立松和彦、新倉 梓、永井覚子(アサヌマ)、瀬賀東吾(奥村)、池部祥子、池上 剛、若林宏彰(鴻池)、竹林 和(佐藤)、葛城弘人(大日本)、平形和広(大豊)、谷本真由美(大和小田急)、榎美喜子(鉄建)、寺門裕司(東洋)、河田政之(戸田)、菊部靖志、持田哲郎(飛鳥)、谷藤知恵、中島 惇、村松 透(西松)、亀山沙衣子、前田信行(ハザマ)、谷田辺友子(ピーエス三菱)、川上陽子(ペンタ)、中野礼子(丸彦)、椎野武幸(三井住友)、雨宮尚司、上野陽子、上木戸功太、新家絵美(横河)、山田健一(りんかい日産) <敬称略>

もや 筋 い

今年5月には、高さ634mとなる東京スカイツリーが開業する予定だ。東京タワーの高さが333mなので、その1.9倍に相当するスカイツリーは、世界一高い自立式電波塔となる。「世界一」という事は何を示唆するのであろうか? そこには「前人未到」の領域があるという事ではないかと思う。誰も経験した事が無い困難を乗り越えられて、初めて「世界一」が達成出来るのだと思う。最近、日本企業や人材のグローバル化が話題となっているが、我が建設業界においては業界の特殊性から、総じてグローバル化が遅れていると指摘され

ている。今、日本において求められるグローバル化とは何なのか? それは自国だけでなく、言葉、文化、習慣の違う国々を舞台に仕事を成功させる事ではないだろうか。そこには想像もできなかった問題に遭遇し、それを解決していく力が必要であり、それがグローバルに活躍できる力の本質だと思う。現在の日本の建設業界が「世界一」を成し遂げる力は、経験した事が無い困難に遭遇しても、解決し、乗り越える事が出来るという、グローバルに活躍できる力があるという事の証だろう。(ふーさん)

編集後記

2012年がスタートしました。年末年始はゆっくりお過ごしになりましたか?

本年はアメリカやロシアの大統領選挙など世界の情勢や経済に大きな影響をもたらす出来事が予定されている年です。どんな一年になるのか気になります。

本号より表紙を一新しました。より季節感が感じられるものとなりました。いかがでしょうか。これからも皆さんに親しみやすい誌面作りを心がけていきます。

さて、本号では日建協の山田議長と日建連の福田常務執行役による新春対談や、5大学への出前講座などを取り上げています。

「建設業がこの国を支えているんだ!」と学生をはじめ、これからの世代の人たちが魅力を感じてもらえれば、建設産業の更なる発展も十分可能だと思います。

まだまだ寒い日が続きますが、健康に気を付け、元気に「ワーク」と「ライフ」に取り組みましょう。

日建協も加盟組合の皆さんとともに「絆」を大事に活動してまいります。

日建協ホームページアドレス www.nikkenkyo.com/

コンパスへのご意見、ご質問、クロスワード、なんでもこちらのアドレスに ➡ nikkenkyo@nifty.com

中山組職員労働組合

1923年(大正12年)中山吉次が、北海道空知郡滝川町(現滝川市)にて個人創業。羽幌線工事の砂利納入を請け負うことから始まりました。

おもに北海道全域の土木・建築業を行っております。

日建協には、1977年(昭和52年)2月に正式加盟となり、34年の歴史があります。北海道では現在、日建協加盟組合は2加盟組合で、日建協とともに北海道発展のために邁進しています。

- 設 立：昭和49年(1974年)4月19日
- 本部執行委員数：11名
- 組合員数：125名(2011年12月1日現在)
- 執行委員会：月1回
- 組 織 率：約52.9%



左上より 安原 広報部長、高橋 札幌支部長、堀田 調査部長、佐藤 聡也 執行委員長
今野 福利厚生部長、瀬戸 副執行委員長
左下より 佐藤 直哉 財政部長、今 青年婦人部長、田中 副執行委員長、
小笠原 組織部長、阿部 書記長



江部乙雨竜線 江竜橋架換
(下部工A1)(翌償)工事



滝川市立病院改築建築工事

より多くの組合員の意見や思いを聞きたい

今年度中山職労組では、組合員の意見や思いを聞くことに特に力を入れていきたいと考えています。当たり前のようですが、これが1番重要だと考えています。

2011年度は、「常に持つ 維持する力と、変えゆく力、みんなの力で一致団結、みんなで目指そう豊かな暮らし」をスローガンに掲げ、アンケートを強化して、より多くの組合員の声を聞きたいと思っています。今までもアンケートは取っていましたが、有効な利用ができずにいました。今回は組合員全員を対象にして、組合員の「本心」を聞きました。このアンケートで得られた組合員の声を、会社にも伝えていきたいと考えています。



佐藤執行委員長

年2回の旅行補助で家族団らん

また、福利厚生の充実にも力を入れています。なかなか皆で揃ってレクリエーションができません。そこで、組合員の家族同士での旅行を行い、動物園や水族館に行ったりしており、組合員には大変喜ばれています。その他に、家族だけの旅行に行くための補助として宿泊旅行補助を年2回行っています。

お父さんがなかなか休みが取れないため、家族旅行も行けないという事が現実ですが、この補助を利用して、ちょっとした暇ができれば、温泉や動物園など家族旅行に行ってもらいたいですね。



みなでルスツリゾートに行ってきました！

建設産業の魅力化にむけて必要なものは？

ゼロからものをつくり、それが出来上がる満足感是他産業にはないと思います。またお客さんや住民の皆様から「生活が豊かになりました」「助かりました」という声を聞くと、この産業に携わって良かったと思います。これは内勤・外勤問わずに言えることだと思います。

います。最近入社してすぐこの業界を去る若者も多いですが、この満足感を味わってもらいたいですね。この満足感をたくさんの人に知ってもらえれば、ますます建設産業の魅力は高まると思います。

みなさんにとってのワーク・ライフ・バランスとは？

一番重要なのは、均衡の取れた調和だと思います。「やりすぎ」も「やらなさすぎ」もだめということだと思います。その為には、ひとりひとりの意識の高揚、無駄のない業務計画の立案等が必要だと思います。しかしながら実際には、かなり苦労されている組合員の意見が届きます。執行部としては、その意見を基に解決策を見出し、組合員に発信していきたいと考えています。やっぱり時短が進めば、生活も充実していくと思います。また、今回のアンケートに、ワーク・ライフ・バランスの認知度についての設問も入れ、組合員にワーク・ライフ・バランスの認知度を高めてもらうように取り組んでいます。



阿部書記長

北海道ならではの事を教えてください

最近、札幌市内でも民家の近くまでヒゲマが出没してニュースになっています。自然破壊が進んでいることが原因のひとつと考えられます。雪について困っている事は、北海道では降る事が当たり前で、特にないですね(笑)。最近では、スキーなど冬にしか出来ないスポーツをしない子供が増えてきているようで、少し残念に思います。

今年度委員長に就任した佐藤委員長と、今期9年目のベテラン書記長の阿部書記長が舵を取る中山組職員労働組合。組合の本質であり原点である「より多くの組合員の声を聞く」ことに力を入れていくとの事でした。北海道は厳しい冬の真っ只中ですが、たくさんの声で、会社も組合もさらに元気になるよう頑張ってくださいね。日建協も応援していきます！